

願いを叶えてくれるお姉ちゃんサンタ？

(翻訳：凜峰／校正：祀夜)

01. 愛と楽しみを広げるお姉ちゃんサンタ

こそこそ、こそこそ.....

こそ、こそ、こそ、こそ.....

.....あつ。

へへ、見つかったちゃった。

ええっ、待って！携帯取らないで、通報しないで！私不審者じゃない、泥棒じゃないから！

本当よ！ほら、よく見てください！

この服装を見ればわかるでしょう？私は愛と楽しみを広げるお姉ちゃんサンタだよ！

決して怪しいものじゃない、絶対！

だ、だから通報しないで！お願いだから、本当に悪いことをするつもりじゃないんだから！

勝手に入ったのは悪いけど、決して悪気はないから！

ただサプライズをしたかっただけだから！

信じてくれよ！

じ、じゃそうしよう！お姉ちゃんが胸を出して謝るから.....！

えっ？いらないって？

信じてくれたの？

本当に？

よ、よかった.....

えっ？どうやって入ってきたって？

それは、壁を這い上がって、ワイアで錠をあけて.....

だ、だって、今のマンションとかは煙突がないんだもん、当然こうするしか.....

あ、怪しくないもん！

サンタのおじさんだって、人の家を潜り込んでプレゼントを贈るのでしょうか？

それに彼は空飛ぶソリがあるのに、私はクライミングができるのはおかしくないでしょう？

でしょう？

何しに来たって？

言いうまでもないでしょう？もちろん、クリスマスの願いを叶えにきたんだよ！

知ってるよ。あなたは毎年、この近くのデパートのクリスマスツリーに願いカードを掛けるでしょう？

ふふん、喜んでいいよ。あなたがいい子だから、願いごとはお姉ちゃんサンタに聞かれたんだ！

それじゃ、今回何の願いを叶えるのか見てみましょう！

ジャジャン！

「素敵な出会いがありますように」！

ふふん、任せなさい！これはお姉ちゃんの得意分野だからね！道具すら用意できたんだよ。私が.....

えっ、これあなたの願いじゃない？

えっ？

本当に違う？

わ、分かったよ。きっと天上にいるサンタさんがあなたの本当の願いを気づいたから、御利益を示して、カードの内容を変えたんでしょう！

うん、きっとそうに違いない！

つ、突っ込むところじゃないわよ！私は真剣にあなたを助けたいんだから.....

どうしてって.....

だって.....

それは、毎年あなたを見かけた時、あなたは一人ぼっちで、黙々と願いカードを掛けるから.....

せっかくのクリスマスなのに、いつも一人ぼっちだったら可哀想なもの。

だから、何を願ったのかを見たくて、何か手伝えることはあるのかなあ.....って。

私が手伝ってもいいの？

やった！お姉ちゃんは絶対に失望させないよ。

どうするつもりって？

それはね、ここにはハサミ、カミソリと.....

えっ、待って、本当に通報しないで！

これは凶器じゃない、物騒なものじゃないから！ただの理容道具だよ！

ほら、散髪マント、櫛と霧吹きもあるよ！

何をするって.....

それは、カードに書いた願いは「出会いがほしい」でしょう？

だから、外見から手を付けるのはいい方法だと思って。

今はちょっとばさばさだけど、ちゃんと整理すれば、あなたはきっとイケメンになるの

よ！

あっ、それ疑いの目でしょう？

お姉ちゃんを舐めないで頂戴。私は美容師免許を持っているから！

早く椅子に座って、お姉ちゃんがイメチェンしてあげましょう！

夜中に髪を切ってもらうのがおかしい？

むっ、あなたが急に起きたせいじゃない.....

元の計画では、私がこっそりと布団に入り込んで、朝になってあなたが「わっ！どうして布団の中に綺麗なお姉さんがいる！」と叫ぶとき、私が世の情けによって答えてあげるはずなのに.....

何しろ、散髪はリラックスできることだし。

私が切っている時あなたはぼーっとしていい。終わったらまた布団に帰って寝る。これで大丈夫よね？

よし。そうと決まったら、早く来て座りなさい！

02. お姉ちゃんは笑顔を咲かせるように、きちんと頑張る（散髪）

苦しくない？

それはよかった。

どこか苦しいとか感じたら、声かけてくださいね。

こういう風にしたいというのはある？

ない？じゃお姉ちゃんに任せるね？

じゃ始めるよ。

なんかプロみたいって？

ふふ。やだなー、免許持ってるって言ったじゃない。信じてよ。

これでも理容科でしっかり勉強してきたから。

今は理容に関する仕事じゃないから、ちょっとごちなくなっているけど、体で覚えたことは忘れない。

一つ一つの動きや、ハサミを使う手つき、全ては練習を重ねた成果だよ。

だからね、安心してお姉ちゃんに任せて大丈夫だよ。

何の仕事してるって？

決まってるじゃない。お姉ちゃんサンタだよ。

愛と楽しみを広げて、笑顔をもたらすいい仕事。

それに、一年間 364 日の休みがあるよ。

冗談じゃないもん。

ほら、今ちゃんと仕事しているじゃない？

給料？

そんなのいないよ。欲しいのはそれじゃない。

世界中のいい子が全て笑顔を見せてくれれば、それ以上の報酬はないんだよ。

という訳で、お姉ちゃんはおなたにも笑顔を咲かせるように、きちんと頑張るから。

うっ、願いを間違ったことは、もう話さないでよ。

欲しいのはそういう嘲笑じゃないもん……

私が欲しいのは心の底からの、幸せな笑顔。

（「ジングルベル」を鼻歌で歌う）

ふふ。

あなたはクリスマスが好き？

私はね、すごく好きだよ。

休みじゃないから、端午や中秋節より少し節句の感じが薄いけど、逆に言えば、休みじゃないのにこんなに重視されているのはクリスマスだけだね。

(＊端午と中秋節は中国語圏の伝統的な祝日である。また、旧正月を過ごすので、クリスマスや年末は休みがない)

デパート、ショッピングモール、それぞれの店は綺麗な飾りを飾って、クリスマスソングを放送する。

友達、家族や恋人もこの日のうちにお互いプレゼントを贈る。

これは祝福と気持ちにあふれた素敵な日。

こんな雰囲気に入ると、気分は自然に良くなるの。

こっちは雪降らないのが残念だね。

そうでなければ、「ホワイトクリスマス」はどんな感じが、本当に体験してみたいなあ。

灯火があかあかと輝く華やかな街で、雪がひらひらと降り始めた。

赤と緑に満ちた大地が、純潔な白に覆われる。

町を行き交う人々の熱情は雪に冷やされず、この雪がもたらす安らかさとロマンをもっと楽しんでいく.....

想像するだけでも、美しいと思わない？

それにね、こんなホワイトクリスマスに、恋人とクリスマスツリーの下で向き合おうと、その絵面が映画やドラマのようで、すごくドキドキするんじゃない？

ああ～雪が降る国にクリスマスを過ごしたいなあ.....

ん？彼氏？

そんなのいないよ。お姉ちゃんはまだ独身で彼氏なし。候補者募集中。

申し込みはいつでも受け入れるんだよ。ふふ。

(「ジングルベル」を鼻歌で歌う)

次は前髪のところを切るので、ちょっと頭を下げてね。

そう、そんな感じ。

目をつむってね.....

前髪は大事な部分だから。

慎重に、切らないと.....

はい、できた。

これですっきりしたね。元気に見えるようになった。

03. 報いたいなら、あとでちゃんと笑って見せて（洗髪）

切り落とした髪はあとでお姉ちゃんが掃除するから。
今は風呂場に入って、お姉ちゃんに髪を洗ってもらおう。

ふふ。遠慮しないの。これも理髪サービスの一部だから。
風呂場は.....こっちだよ？
あっ、丁度バスチェアがある。よかった。

ほら、上着を脱いで、ここに座りなさい。
湯加減は大丈夫？
それはよかった。

次はシャンプーをつけるね.....

どうしてあなたのことを気づいたって？
ん.....実は偶然かな。

毎年この時期になると、私はクリスマスツリーにカードを掛ける人たちを観察する。
そのうちにくっついているカップル、微笑ましい家族、それとにぎやかな友達たち同士
がいる。
当然、あなたみたいに、一人でカードを掛ける人もいる。
けれど、あなたは彼らとも違う。

願いごとをする時の顔は、希望と期待が溢れているはず。
なのに、あなたの表情はちょっと寂しそう。
私はそれが嫌。
だから、あなたのことを気になってくるの。
何か、してあげたいの。

ふふ。感謝はいらないよ。ただしたいことをしているだけ。
本当に報いたいなら、後で笑って見せてね？
約束だよ。

じゃ泡を流すよ。

あっ、ちょっと待って。まだ終わってない。

もう一つすることがある。

これはリンスだよ。

きっと持ってないと思うから、勝手に持ってきちゃった。

そう、必要がある。

髪を洗った後はリンスを使ってこそ、パサパサにならないんだ。

髪の保養も大切なことだよ。

リンスも流すね。

04. お姉ちゃんが髪を乾かしてあげる（ドライヤー）

それから、タオルを巻いて.....

力を入れて拭くのはだめだよ。髪が傷つくから。

はい。

風呂場から出てきて、お姉ちゃんが髪を乾かしてあげる。

えっと、ドライヤーは.....

あっ、あった。

さ、お姉ちゃんのそばに座って。

はい、これでよし。

いくよ。

熱くない？

ん、よかった。

変なヤツだと思ったって？

失礼な.....

入ってくる方法はちょっと特殊だけど、その言い方はないだろう？

ど、泥棒やってたってなによ！

ただ昔よくカギを忘れるから、ワイアで錠をあける方法を覚えてただけだよ.....

優しくしてあげたのに、そうやってからかって、この恩知らず。むっ！

ふふ。許してあげる。

怒ってないよ。

本当に怒ったら、とくにドライヤーであなたの髪を焼け焦げたから。ふふ。

はい、髪は乾いた。

05. いい子にはご褒美を与える（右耳かき）

では、全部済んだから、次は.....さき約束したこと。

ほら、お姉ちゃんを見て、にかっと笑って。

そう、今。

笑って見せなきゃダメ。

笑ったらかっこいいんじゃない。

これからはふさいだ顔をしないでね。

ふふ。

さて、あなたがいい子にしていたから、お姉ちゃんはもうちょっとご褒美を与えてあげる。

さ、膝に頭を乗せて、お姉ちゃんが耳かきしてあげる。

ほら、恥ずかしがらないで。

よし、いい子いい子。ふふ。

では、始めるね。

（「サンタが街にやってくる」を鼻歌で歌う）

Oh! you better watch out.

You better not cry.

Better not pout.

I'm telling you why.

Santa claus is coming to town.

クリスマスソングの中には、最も好きなのはこれなの。

だっていい曲だもん。

それに、この曲を歌うと、この一年間どんな嫌なことがあっても、私がいい子にしていれば、最後はきっと報われると、そう感じる。

だから、以前からサンタさんはずっと私の憧れ。

そう、昔は本当に信じてた。

だって小さい頃毎回クリスマスの朝に目覚めた時、本当にプレゼントが置いてあったもの。

大人になったら自然に真実を知ったけど、あの頃は本当に思っていたの。私が何をしていたって、サンタさんはきっとどこかで、私はいい子にしていたかを見てるって。

むっ、ストーカーって.....

そういう話をしている時は、夢のようないい雰囲気に包まれているはずじゃない。

ぱっと現実に戻させるなんて、空気読まないんだから。

ふふ。子供っぽいわって何か悪いよ。

童心を忘れないほうが、楽しんで生きていけるんだよ。

（「サンタが街にやってくるのリフレイン」を鼻歌で歌う）

本当は、あなたも信じてるんじゃない？

サンタさんだよ。

そんな意味じゃないよ。子ども扱いしていない。

私が言いたいのは、もしかすると、あなたの心の底は、本当はサンタさんを信じたいのかも。

だって、本当に家ごとにプレゼントする人はいないんだって知っていても、自分の良さを誰かに分かってほしい。

ちょっとでも、報われてほしい。

だから、願いカードを掛けたの。そうじゃない？

はい、耳かきはできました。

次は綿棒を使って.....

そっと、ゆっくりと.....

残っているのを.....きれいにして.....

はい、きれいになった。

続いては、耳に息を吹いて.....

吹くよ。

これでこっちの耳掃除は完成したね。

06. 以前より、クリスマスがもっと好きになったか？（左耳かき）

次は左側だね。頭をこっちに回って。

はい、これでよし。

じゃ始めるね。

どうしてお姉ちゃんサンタになるって？

だって、クリスマスが好きすぎたもの。

好きで、クリスマスのことを思ったら、一日中嬉しくなる。

好きで、クリスマスの一ヶ月前から、家を飾り始める。

好きで、クリスマスソングの歌詞全部しっかり覚えてる。

好きすぎたもの。

だから、この日に悲しんでいる人なんていてほしくない。

みんながこの日に幸せに過ごせるように何かをする。そして、私と同じにクリスマスが好きになってもらう。

だからね、お姉ちゃんに言っていていいかな？

以前より、クリスマスがもっと好きになったか？

ふふ。

何人の家に入ってたって？

実は、あなたが初めてなんだ。

だから、ここに入る前、ずっと迷ってた。

こうやって押し込んで本当に大丈夫かな？頭がおかしいとか思われるじゃない？

頭の中にはこんなのばかり。

でも、最後はやはり思い切ってドアを開けちゃった。

あなたが通報しようとするのを見た時、本当に心臓が止まるかと思った。

辛うじて説得した後も、ちょっと後悔していた。

なんでそんなに衝動したの？こんなことするんじゃないかった。

でもね、さっきあなたの笑顔を見た。

その笑顔を見たら、私は思った。お姉ちゃんサンタになってやはり正解だったって。

だから、私からもありがとう。

こんな馬鹿なことに付き合ってくれて、ありがとうね。

ふふ。

(「ホワイトクリスマス」を鼻歌で歌う)

では同じく綿棒を使って.....

いくよ。

はい、きれいになった。次は.....

ふーってするよ。

ふふ。

07. 実是一个の嘘をついたの

眠くなった？

眠たいなら、このまま寝ていいよ。

あなたが眠るまで、お姉ちゃんはずっと傍にいるから。

(「おめでとうクリスマス」を鼻歌で歌う)

一つ.....言いたいことがある。

実はね、お姉ちゃん是一个の嘘をついたの。

あなたが掛けた願いカードは、見てなかった。

「出会いがほしい」のそのカード、私が書いたの。

あれはどっちかというと、私の願いかもね。

クリスマスのこの日に.....私がお姉ちゃんサンタになるこの日には、適切な人に出会ってほしいから。

この願いは叶った。

あなたに出会えて、とっても嬉しい。

でも、私はあなたの願いを叶えることはできない。

それは、どんな願いでも、自ら足を踏み出さなければいけないから。

あなたの願いを思い出して。

出会ってほしい相手があるなら、頑張って探す。

ほしいものがあるなら、頑張って稼ぐ手に入れる。

完成したいことがあるなら、頑張って完成する。

クリスマスは祝福に溢れる日。

あなたが踏み出したら、全世界はきっと祝福してあげる。

私も祝福するよ。

だから、今はぐっすり寝て、クリスマスの朝を待ち望みましょう。

(「おめでとうクリスマス」を鼻歌で歌う)